

### 飛鳥資料館の秘蔵物(3) 武人像

飛鳥資料館のロビーには、甲を身にまとった厳しい姿の武人が現在展示されています。この像は「武人君」という愛称で飛鳥資料館では親しまれています。

彼は、<sup>じんしん</sup>壬申の乱で戦ったであろう武将の姿を推定復元したもので、身にまとっている甲は飛鳥寺の塔心礎に埋納されていた鉄製の<sup>けいこう</sup>挂甲を参考としています。同時に展示している飛鳥寺に埋納された挂甲の出土状態のレプリカとあわせて見るとわかりやすいのではないのでしょうか。

武人君は、展示や移動するのにも学芸員が一苦勞するほどの重装備です。鉄製の甲を身にまとい、弓を構え、大刀をはじめとする様々な装備品を腰に下げますが、これほどの装備は古代に末端の兵士にまで行き届いていませんでしたので、まさに「武将」クラスの装備品といえるでしょう。

来館者の方々には、イメージするのが難しい古代人の姿がつかみやすいとかなか好評です。

(飛鳥資料館 成田 聖)

復元された武人の姿

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで、年末年始・月曜休館) お問い合わせ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)



編集 「奈文研ニュース」編集委員会  
発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>  
Eメール [jimu@nabunken.go.jp](mailto:jimu@nabunken.go.jp)  
発行年月 2012年12月